
クズレタセカイ

黒ぶりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クズレタセカイ

【NNコード】

N8660D

【作者名】

黒ふりん

【あらすじ】

そして彼は異界に飲み込まれた。

「チジョウノイカイ

桜が舞い、真新しい制服に袖を通した学生達

ハゲた校長の長い演説を聞くだけの入学式

友人達と別れ、一人で入学した高校

慣れない土地、風景、言語

日本という狭い世界でも方言が混じればそこは異界である。

入学当初のあの高まる胸の鼓動は何処に行つたのだろうか？

そんなことを思いながら憂鬱な一日を過ごす。

カリカリコツコツ

一定のリズムを刻む教室、

遠い過去を振り返り今の自分と照らし合います。……

何も変わっていない。

楽しみも無い、趣味も無い、おまけに友人も居ない。

成績だけが一人歩きして、クラスでの俺の印象は「暗い奴」

そんな俺にも人生の転機が訪れるもんだ。

たとえそれがどんな状況だろうと……

イカイヘントピカ

朝の日差しが鬱陶しい。

喚き散らすよひに鳴り響く田覚まし時計。

それでも身体は動き出す。

田常と呼ばれた一日が始まる。

憂鬱と考えられた一日が始まる。

義務的な一日が始まる。

朝起きて顔を洗い、

朝食を食べて、

自転車に乗つて……

いつものように登校、

いつものように授業を受け、

こつものよひて帰れる。

それが俺の日常だった……

ソレガアル日、クズレサッタ

最初は寝ぼけて幻覚でも見たのだと思つた。

でもコレはそんな生易しいモノではなかつた。

「……何だ……コレ?」

空間の亀裂……と言えば良いのだひつか?

廊下のど真ん中にまつかりと開いた穴、

ありえない現象でも、俺はソレに魅せられ釘付けになる。

世界が凍りついた。

穴の奥で、何かが見えたからだ。

それを見た瞬間、背筋に悪寒が走った。

見てはいけない何かがソコに居る。

知ってはいけない何かがソコに眠る。

触ってはいけない何かがソコで蠢いている。

じばりくソレを凝視していると、

「「「」」」

穴の奥から声が溢れる……

「うう……！」

突然目の前が真っ暗になり、何かに腕を引っ張られた。

引きずり込まれたと思ったがもう遅い、

抵抗する間も無く、俺はソコに招かれた。

悪魔の支配する世界に……

「モウニグラレナイヨ、永遠……」

時間に縛られた世界に俺は招かれた。

トドカラノコウワク（前書き）

申し訳ありません。
スランプ脱出が遅くなりました。
執筆再开します。

トドカラノコウワク

そこは暗い…暗い世界

360度暗黒が広がり、誰も存在しない世界

「…？」

不意に漏れたヒトコト、

ソレガ引キ金トナッタ…

何かが俺の肩を掴む、

「君が望んだ異界だよ？」

気配が喋る。

振り向こうとしても振り向けない。

喋らうとしても喋れない。

「君は可笑しな人間だネ？」

耳元で囁く声、

「ねえ？遊ぼう？」

それは甘く、怪しく誘つ……

「……イイヨネ？」

その言葉が聞こえた時、俺の意識は消し飛んだ。

あれからどのくらい経つたのだろうか……

何秒、何分、何時間、どのくらい経つたかわからない

不意に歓声や歎絶声や叫び声がない騒音

「やがれや吼えよ。」
時一時

意味さえ判らない。

そんな謎めいた共に、

俺は「ソロ」に招かれた。

「時間、それは現世における動きの象徴！」

扉を開けると、俺は観客席に面した。

……謎めいたこのつの間でせり聞けなくなっていた。

「照り、流れ、動き、様々累々すべてを現す存在！」

舞台……ステージつと言つたらいいのだらつか？

ともかくその場所で男がなにやら熱弁している。

「嗚呼、すばらしきこの世界……呑一。」

両手を大きく振り上げ高らかに吼える。

「スバラシイコノ異界……！」

俺はただ呆然とその男を見つめていた。

「ウワクトアザケリ

両の手を高く勢いよく振り上げ、高らかに吼えるタキシード姿の人物。

見上げても、照明の眩しさで顔はよく見えない。

「……さて、皆さんまたもや主の戯れか、はたまた自分から迷い込んだのか」

声のトーンを落とし、俺を見る。

「新たな子羊がこの異界へと招かれました」

「なつ……なんなんだよオマエ！？」

照明を抜け出した男の顔を見て、俺は凍りつく、

「初対面の人物にオマエとは失礼な子羊ですな」

静かに、冷静に答える男……彼の顔は

「いつもいつも私は初対面の子羊に驚かれる……否、恐怖？否、あえて言つなら拒絶」

回つぐどい語りをする男は、

「ああ……確かに驚きますね私の顔…呑くべつ頭部はね」
頭が無かつた。

「だからもう一つ…いやーんと御洒落はしております」

正確には首から上はシルクハットですっぽりと覆われていた。

「お、御洒落ー!?

俺は不覚にもオウムのように繰り返してしまった。

「今回の回答はアナタでちょうど千人目……もつと面白い回答を期待したかったのですが…まつこいでしょ!」

シルクハット男はくるりと踵を返し、

「では、貴方と主の戯れ事……私共に見せてもらいましょうか!」

パンツと両手を打ち合わし、両手を開いてステッキを出す。

「貴方には選択してもらいましょうか」

ステッキを打ち鳴らすと豪華な扉が現れた。

「時間の異界へ入るのか？否か？はたまた別の選択か

両手を広げ怪しく誘つよつに語るシルクハット男

「お、俺は元居た所に…」「否…それは出来ません」

遮つた言葉は予想がつく。

「……なら帰り方を教えてくれ」

「ふふつ自分で選んだ道もはや後戻りなど」

その言葉も分かる。

「だつたらオマハの名前だ！」

「……名前？」

男が嘲るのを止める。

「ふふつ 貴方には名前といつものがありますか？」

男は自分の名前を告げず逆に問い合わせた。

「俺は……あ、アレ？」

俺はそこで初めて気付いた。

「俺は……ダレダ！？」

もう自分の存在が白紙になつたことを……

「さあさあ選びましょーー行くのか否か？貴方が選択しないと戯れ事が始まらないではありますんか！」

もう俺には選ぶ事など出来なくなつていた事に……

「そうです、そうですー！」これで千人すべて同じ選択を行いました

男はまた嘲りだした。

「残念ながら別々の異界へ」招待するのですが

俺はゆっくりと扉へと向かっていく。

「貴方ニハコノ異界ガヨクナジミマシヨウ」

シルクハットの中で歪んだ口が刹那に垣間見えた……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8660d/>

クズレタセカイ

2010年10月22日00時40分発行